

大縄大会、今年のサプライズは、ペアでの戦い。1・6年、2・5年、3・4年。均整の取れた集団に思えるが、発達段階と身体能力、偏差を考えるとそうとは言えない。ただ、その偏差が見せる集団の特性を考えるととても興味深い集団▼きっと素敵な姿が見えるはずだ。優勝候補は3.4年。こわいものなしの瞬発力を見せるだろう。続いて2・5年。安定した力を発揮し、3・4年の結果によっては・・・1・6年は、少し分が悪いが、6年生の事実が見えるだろう▼勝負は、2回挑戦して、多い方の記録で勝負。結果は、3・4年生の勝利。2回のたしざんでは、2・5年が勝っていた。取り組み期間があったら、結果は違っていたかもしれない。リーグ戦とトーナメント戦の違いに似ている▼まずは、3・4年が勝ってよかった。盛大に喜ぶ元気な中学年には、笑顔と歓声が似合う。素晴らしいのは6年生。まず1回目は跳ぶ順番を1616..と交互にした一人一役作戦。1年生を容赦なく縄に入れていく。2回目は11..66..とかえた▼2回目は回数が大きくなった。6年生は、回数を増やすために知恵を絞って工夫して、2回目に臨んだ。それら一部始終は、わたしの予想を超えた景色、育ちに育った6年生の価値ある姿だった。▼奇跡のあいさつ復活で、子どもたちの成長の軌跡を押し量ることができた。来週は、学級集団の力、全校の力を合奏と歌で見せてくれるだろう。